

特集 新たな文化財保護の推進

巻頭言 ● 8 文化財保護のあゆみ
文化財保護法改正に寄せて ● 西川杏太郎

座談会 ● 10 文化財保護の新たな展開
◆(出席者) 木原啓吉／荒井 桂／嶋崎 丞／小島美子 ◆(司会) 崎谷康文

◆(出席者) 木原啓吉／荒井 桂／嶋崎 丞／小島美子 ◆(司会) 崎谷康文
論文 ● 22 地方公共団体から見た文化財保護制度について ◆ 野村興兒

エッセイ ● 26 上方落語の効果音 ◆ 桂 米朝

事例紹介 ● 28 歴史的建造物の文化財登録
京都市における試み ◆ 京都市文化市民局文化財保護課

事例紹介 ● 31 埋もれた文化財掘り起し
「未指定文化財の登録」制度 ◆ 熊本県山江村教育委員会

事例紹介 ● 34 フランスの文化財登録制度について
日本における課題も含めて ◆ 羽生修一

解説 ● 37 文化財保護法の改正について ◆ 文化庁文化財保護部伝統文化課

Q & A ● 45 文化財登録制度Q&A

特別記事 今後の医療関係者養成の在り方

● 48 二二世紀に向けての

医療人養成の在り方について ◆ 鈴木章夫

● 51 二二世紀の命と健康を守る医療人の育成を目指して

二二世紀医学・医療懇談会第一次報告 ◆ 高等教育局医学教育課

● 53 医学教育における改革事例

◆ 高知医科大学・東京女子医科大学・大阪大学医学部

「ある日の学校訪問記」

◆ 滋賀県立国際情報高等学校 滋賀県

4 天然記念物歳時記「花じよみ」

◆ ハリス自生南限地帯(茨城県・鳥取県)

表2 名作シリーズ ◆ 蔬菜静物

表3 文化財紹介 ◆ 刺繍 三味耶幡

カラー

6 であい、ふれあい ◆ 羽生善治

57 焦点—文教施策

60 中教審ユース

64 ポイント生涯学習

◆ 生涯学習情報提供システムの整備充実

66 都道府県発—教育・学術・文化スポーツユース

◆ 福島県 ◆ 埼玉県 ◆ 岡山県 ◆ 福岡県

68 どんな講座—こんな講座—大学の公開講座から

◆ 東北大学 ◆ 京都府立大学

70 現代スポーツあれこれ

◆ 二〇〇二年ワールドカップについて

72 科学はいま—理工系へのいざない

◆ 東北大学 素材工学研究所

75 お知らせ

76 鑑賞席—日本人の源流をさぐる

◆ ビテカントロラス展

◆ 美術家の冒険

多面化する表現と手法

78 ぼくたち、わたしたちのウィークエンド

◆ 青森県浪岡町教育委員会

80 海外教育ユース

82 文学のふるさと ◆ 二十四の瞳

84 編集後記

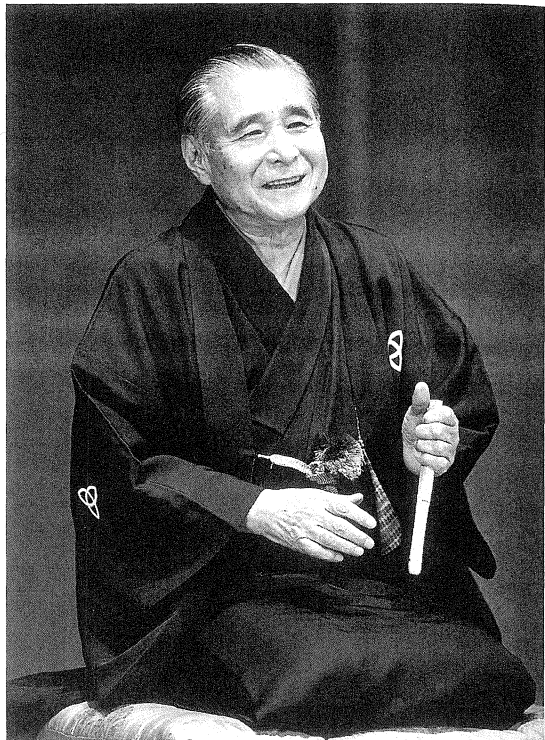
京都が都であったころなら当然だが、首都が東京に移ったからは東京こそ上方なのに、いまだに京阪地方を上方と呼ぶ習慣が残っている。もっとも、上方舞とか上方歌舞伎とか上方の味とか、ある分野に限られていて、その一つとして上方落語と呼ばれている。

落語ファンは別として、昭和三〇年ころまでは、関西にも落語があるのか、という程度の認識であった。戦後、減びかけていたものが何と盛り返して、総勢一五〇人を超すようになったとは、当事者の私も驚いている。

しかし東京のように落語中心の寄席がなくたってからも四〇年になる。我々は様々な独自の勉強法で修行してきたから、今でも苦しい状況ではあるが、また雑草のようなたくましさもそなえているという自負はある。

東京と上方の違いは……とよく聞かれるが簡単に言うことではない。しかし上方落語の特徴の一つとして、お囃子鳴物という効果音をよく使う。それについて述べてみよう。

東京の落語では、芝居囃子などは別だが、原則としてこんなものは入らない。上方では



エッセイ Essay

落語家 桂 米朝

かつら・べいちょう 本名中川清。兵庫県出身。昭和22年桂米團次入門。芸術選奨文部大臣賞、紫綬褒章、朝日賞など多数受賞。平成8年、重要無形文化財保持者に認定される。

近年は減る傾向にあるが、昔はむやみに入れたものである。

例えば、淋しい夜道を歩いてゆく時など、「さあ出かけよう」と言うと、ボンとドラの音が入り、凄みの合方という三味線が流れドドドドという風音がからむ。料亭などで大宴会となると、賑やかに三味線、太鼓、鉦が入る。「小倉船」、「兵庫船」等で船を出すところでは、陽気な船唄が鳴物と共に歌われ、ドンドンという水音が入る。時には演者と下座がかけ合いになる演出もある。それらの効果音は寄席独自のものもあるが、九割近くは歌舞伎や地唄などからの借り物である。

こうなると、この役は年季の浅い、いわゆる前座では間に合わぬ。演者が楽屋の顔ぶれを見て、ウンこれならあがやれるなど、演目を決めることもしばしばある。

従って上方の一流の寄席には、昔は随分いろんな楽器が、二〇種近くも揃っていた。小さな芝居小屋の囃子場に負けなかったと思う。しかし、これらを駆使できる人は減る一方だったので、二〇年ぐらい前からその養成に

つとめた。若手に笛や鼓の稽古に通わせ、三味線や踊りを習させた。昔から、お客の前で踊るかどうかは別として、舞踊は落語家の必須科目の一つであった。

あるキツカケで鳴物を入れたりツケを打ったりする呼吸は、これで結構むづかしい。演者によつて注文もあるし演出も異なることもある。それも心得ていなければならぬ。

どうかたと案じていたが、みな結構やれるようになった。やる気があれば若い者は吸収が早いし、今では下座囃子鳴物は一応間に合うようになっている。要はやる気がある——ということ。その根本はその芸が好きである、ということ。芸ことはやはりその芸が、好きでなければ続かない。

上方落語の効果音

特集 ●
地域における
生涯学習機会の
充実について

● 巻頭言
学社融合の考え方 —— 伊藤正巳

● 座談会
様々な機関・施設における
生涯学習機会の提供について
(出席者) 大野 忠ノ木村 孟ノ鈴木敏恵
二宮操ノ一 旬倉 北村幸久

● 論文
創造的な人材の育成に向けて
求められる教育改革と企業の実動 —— 和田龍幸

● エッセイ
事例紹介 —— 服部幸恵
東京大学ほか

● ごんな講座 こんな講座
大学の公開講座から —— 富山医科大学
都道府県発 —— 教育・学術・文化・スポーツ・マス
岩手県・神奈川県・富山県・滋賀県

▽今月号の特集テーマは、「新たな文化財保護の推進」です。科学技術の発達した現代社会に生きている中で、文化財に接したときの心の安らぎは、何ものにも代え難いものです。貴重な文化財を保護し後世に引き継ぐことは、今に生きる我々の努めです。今回の文化財保護法の改正で導入された文化財登録制度を中心に新たな文化財保護の取組を紹介しています。

▽先月号でもお伝えしましたが、七月一九日に中央教育審議会から第一次答申「二一世紀を展望した我が国の教育の在り方について」が出されました。日本の将来を担う子供たちの教育について、学校教育はもろろんのこと、家庭教育の在り方や地域社会における教育の在り方について幅広く提言がな

されました。いじめや子供の自殺が社会問題化している今日、多くの国民の皆様にご覧いただきたく思います。

▽全文掲載の「文部時報臨時増刊号」を本号と同時期に発刊します。学校やPTA関係者等多くの皆様に活用いただけると幸いです。

この提言では、「ゆとり」も大きなテーマとなり、学校週五日制の完全実施も求められました。通勤にバスを利用してはいますが、駅から自宅近くまでの車中、塾帰りの小学生の姿が午後一〇時過ぎまで見られます。夜遅いにもかかわらず明るく元気に仲間と語り合う姿に敬意を払いながらも、社会全体にもっとゆとりを、と思いつながる子供たちを見たいです。
(T・K)

投稿歓迎

「読者からのたより」欄への投稿、「文部時報読者アンケート」を歓迎します。本誌を読んだ感想、御意見等をお寄せください。
●「読者からのたより」投稿規定
①1件につき400字以内 ②住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記(誌上匿名可) ③掲載分には薄謝進呈
※文章を一部手直しさせて頂いております。
送り先
〒100 東京都千代田区霞が関3-2-2
文部省大臣官房政策課
「文部時報」編集部
※電子メールでも受け付けております。
宛先名「jiho@monbu.go.jp」
●「文部時報読者アンケート」
文部時報読者アンケートは添付のはがきのほかに電子メールでも受け付けております。
宛先名「jiho@monbu.go.jp」

第1436号

文部時報 8月号

MESSC. 61 月刊

平成8年8月10日印刷
平成8年8月10日発行

- 著作権所有 —— 文部省◎
- 発行所 —— 株式会社 ぎょうせい
- 本社 〒104 東京都中央区銀座7-4-12
- 本部 〒167-88 東京都杉並区荻窪4-30-16
- 電話 03-5349-6666(営業部) 振替口座 00190-0-161
- 印刷所 —— 株式会社行政学会印刷所

定価600円(本体583円)(〒84円)
年間購読料7,200円

●ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます。
●なお、購読のお申し込みは直接営業所またはよりの書店にてお願いいたします。

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、それぞれ筆者個人の見解であることをお断りいたします。

Printed in Japan 1996 ISSN 0916-9830 ●この刊行物は再生紙を使用しています。